

◇事業目的

1. 「六古窯サミットin信楽」宣言の実現

2025年大阪・関西万博の好機を活用し、日本六古窯（越前焼・瀬戸焼・常滑焼・信楽焼・丹波焼・備前焼）の伝統と文化を発信し、日本の伝統工芸と手仕事の魅力を高め、持続可能な地場産業の実現を目指す機会とする。

2. 万博事業との連携による六古窯産地へのインバウンド促進

世界中から人々が訪れる水景空間に六古窯の陶器を使用することで、日本の伝統的なやきもの産地群の認知を高め、工芸に関心のあるインバウンドなど観光客の六古窯産地への誘客につなげる。

◇事業経過

- 11/28 大阪・関西万博シグネチャーパビリオンへの制作品提供について幹事会可決
- 2/10 中島さち子プロデューサー訪問（六古窯各産地PRとクレイバー事業報告）
- 2/12 小堀哲夫建築士訪問（六古窯各産地PRとクレイバー事業報告）
- 3/ 5 「いのちの遊び場 クラゲ館」（以下略称「クラゲ館」）全体会議参加（六古窯クレイバー事業報告）
- 3/28 サプライヤー協賛 同時プレスリリース

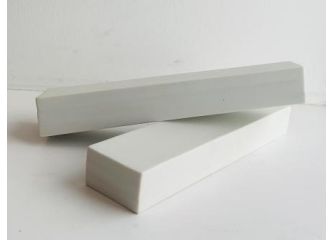
◇現状と今後

- ・越前焼 300枚、瀬戸焼 600枚、常滑焼 800枚、信楽焼 1,000枚、丹波焼 800枚、備前焼 700枚の **計4,200枚** を6月上旬の納品に向け、各産地で制作中
- ・協議会および各産地の万博事業を六古窯HPで情報発信し、万博HPとクラゲ館HPとリンク
- ・各産地の水景クレイバー制作事業を映像化し、万博を通じ産地らしさを国内外に情報発信
- ・六古窯ロゴマーク入りの記念クレイバーを制作
- ・クラゲ館協賛企業・団体との共創による事業展開
- ・会期後、クラゲ館のコンセプトの一部として場所を変えリユース予定

◇参考

◇テーマ事業「シグネチャーパビリオン」とは

テーマ事業は大阪・関西万博を象徴・代表する事業であり、8名の専門家がつくるパビリオンは、テーマをそれぞれの哲学から語り深める「署名作品」でもあることから、「シグネチャーパビリオン」と名付けました。8名のテーマ事業プロデューサーが大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を、それぞれ固有の観点から解釈、展開し、未来に生きる人々に繋ぎ渡すパビリオンを建設します。



◇取り組み状況①

越前焼／福井県越前町

越前焼という地域の伝統工芸に触れるとともに、万博への関心を持ってもらうことを目的に、令和6年1月17日の宮崎小学校をキックオフに、町内全8小学校を巡回し、水景クレイバーを制作しました（延べ200名参加）。越前焼作家が制作指導しました。



常滑焼／愛知県常滑市

とこなめ焼協同組合が水景クレイバーの制作を担います。令和6年3月9日に取組みがキックオフし、常滑焼伝統工芸士含む組合員有志21社が集結して、成形・乾燥などを行いました。



瀬戸焼／愛知県瀬戸市

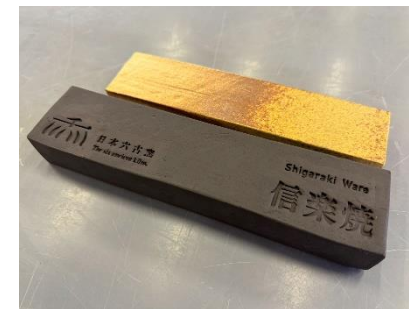
瀬戸市内の瀬戸焼事業者が制作した水景クレイバーに、令和6年4月20・21日に開催する第63回せと陶祖まつりイベント会場でメッセージを記入することで万博への思いを込めてもらうイベントを実施します。会場内では万博や六古窯に関する展示を行うことで知識を深めていただきます。



◇取り組み状況②

信楽焼／滋賀県甲賀市

産地の将来を担う児童・生徒らが水景クレイバーを制作しています。令和6年2月19日に、信楽高校生と信楽中学生カンパニー部員との共同制作でキックオフしました。シンプルな制作工程とし、高校陶芸部の生徒や陶芸作家らが指導に当たっています。



丹波焼／兵庫県丹波篠山市

丹波立杭陶磁器協同組合の組合員（約50窯元）が各窯元において水景クレイバーの制作を担います。丹波の土の素朴さが感じられるクレイバーとなっており、万博を契機に日本の焼き物文化を世界中に発信します。



備前焼／岡山県備前市

備前焼唯一の教育機関である陶芸センターにおいて、水景クレイバー制作事業を研修カリキュラムに取り入れ、備前焼作家の協力のもと備前焼作家を目指す研修生の技術に関する知識・実技の習得に取り組んでいます。

